

第1回 第三次西東京市地域福祉活動計画 進行管理委員会議事録

日時 平成27年11月24日(火)

午後7時～9時

場所 田無総合福祉センター第3会議室

---

出席委員：石橋尚、伊藤正子、榎本めぐみ、熊田博喜、畠山昭裕、土方孝一郎  
三輪秀民、吉田真也

欠席委員：岩崎智之 (敬称略、五十音順)

事務局：池田正幸(事務局長)、齊藤睦(総務課長)、丸木敦(福祉活動推進課長)  
浜名幹男(福祉支援課長)、鶴野浩至(総務課長補佐兼法人運営係長)  
小平勝一(福祉支援課長補佐兼権利擁護係長)、石井一雄(地域福祉推進係長)  
小口浩司(法人運営係主任)

<配布資料>

- 資料1 第三次西東京市地域福祉活動計画 本書
- 資料2 第三次西東京市地域福祉活動計画進行管理委員会委員名簿
- 資料3 地域福祉活動計画進行管理委員会設置規則
- 資料4 地域福祉活動計画進行管理委員会傍聴要領
- 資料5 第三次西東京市地域福祉活動計画 ～みんなですすめる計画～ 進行管理
- 資料6 第三次西東京市地域福祉活動計画について
- 資料7 第三次西東京市地域福祉活動計画「推進部会」について
- 資料8 第一次、第二次西東京市地域福祉活動計画進行管理シート

<議題>

1. 西東京市社会福祉協議会 会長あいさつ

<代理として事務局長あいさつ>

今回の「第三次西東京市地域福祉活動計画(以下、第三次計画)」は、時間をかけてご検討いただいた貴重なご意見となっている。これまでにいただいた答申を基に、実行性のあるものとしなくてはならない。第三次計画は、これまでのものとは違い、市民が中心となる計画である。

たくさんのご意見を頂戴したい。

2. 委嘱状の交付 会長に代わり事務局長より委嘱状を各委員に交付

※委嘱期間：平成27年11月24日から平成29年3月31日まで

3. 委員紹介及び事務局紹介ならびに資料の確認

各委員から自己紹介。事務局の紹介を行う。  
また、事務局より、配布資料の説明を行う。

#### 4. 委員長、副委員長の選出

立候補者がいないため、事務局より、委員長 熊田委員、副委員長 伊藤委員を提案。参加者全員拍手にて承認。

<委員長あいさつ>

今回の進行管理を行う第三次計画は、他市で作られているものや第一次、第二次の計画と違い、ユニークなものとなっている。特に住民が「西東京市をよくするために何ができるか」が試されている珍しいものになっている。かなり難産の計画であった。今回の進行管理委員の中にも計画の策定に係っている方がいるが、この計画をどうやって実現していくか、また、一方でこのような活動計画について進行管理をどのようにやっていくか、課題は多い。また、そのやり方にルールがない。東京都社会福祉協議会からも他地域の実践を含めアドバイスをいただき進めていきたいが、マニュアルがない以上は、やり方を話し合いながら進めていかななくてはならない。お気づきになったことは、どんどんご提案いただきたいし、一緒に進めていきたいと思う。

<副委員長あいさつ>

この領域については、専門ではないが、この計画は特色があると聞いている。意欲が現れた計画である。参加できることを楽しみにしている。

※ここで、議事の進行を事務局より委員長に交代する。

#### 5. 議事録の公開、会議の傍聴について

事務局：議事録の公開について。原則公開としている。議事録を公表することで検討の経過を明らかにすることを目的とする。作成方法は「全文記録」「発言者の要点記録」「会議内容の要点記録」などの形式があるが、他の会議では、委員のご発言の要点記録としている。会議内容を録音させていただきながら進めていきたいと考えている。また、委員会の傍聴については、規定のとおりに進めたいと考えている。ご検討いただきたい。

委員長：議事録の公開方法については、全文記録でなくてもよいかと思うが、内容ごとの要点記録でよろしいかと思う。

(全委員了承)

委員長：議事録は、ホームページ(以下、HP)で公開することを確認する。発言者については「委員」「委員長」「副委員長」との表記でよろしいかと思う。

続いて、会議の傍聴について。規定に記載されている通り、開始30分前に申し込むということだが、受け入れの人数は、会場に即して考えるということによいか。

事務局：実際には4~5人を想定している。

委員長：このルールで行うことでよいかと思う。この計画自体は、多くの市民の方に協力していただき作られた。委員会を傍聴したいという方もいると思う。規定の

内容で傍聴を認める方向でよろしいか伺いたい。  
(全委員了承)

## 6. 地域福祉活動計画進行管理委員会のすすめ方について

☆事務局より「資料5：第三次西東京市地域福祉活動計画～みんなですすめる計画～進行管理」に沿って説明。

委員長：そもそも、進行管理委員会が何をやるかという、一般論的なことはあるのだが、まずはどう進めていくかとの説明が事務局からあったと思う。わからないことなど、ご意見をいただきたいと思うが、はじめに、進行管理委員会と各部会との関係についてご説明いただきたい。

事務局：計画をどのように遂行してきたか。

大きな目標を3つにとらえ「居場所づくり部会」「人材部会」「情報部会」を設置した。これらは、市民が一番必要だと感じている切り口として挙げてみた。アクションプランとして、計画を立てている。どのように進めるかを部会で話し合い、取り組んでいる。それを進行管理委員会で評価していただくように報告する。

委員長：この委員会に、各部会を代表して3名の委員が参加されている。市民として部会に参加し実働部隊として参加している。部会の活動をフィードバックして、進行管理委員会と2階建てのようにすすめていくことになると思う。他のご意見をいただきたい。

委員：評価というものは、紙状の挙げられた資料について評価するのか、実際に私たちが現場に出向いて評価していくのかを伺いたい。

委員長：第二次計画では、詳細な資料を作りすぎて、何が書いてあるのかわかりづらいとのご批判を受けてきた。なので、今回はシンプルな計画にした経過もあった。評価については、どのような形であってもよいのではないかと考えている。そのやり方も議論の対象になっていると思う。

委員：各推進部会の行っている具体的な活動・実施内容の検討を行うことになると思うが、その構成はどのようになっているのか。

事務局：全部会でメンバーは20人ほどいる。市民だけではなく大学生も参加している。

委員：進行管理委員会では、各部会の活動の評価を行うのか、それとも、計画の全体について評価を行うのかについて、また、平成30年までの計画について評価するのか、今年度の活動を評価するのかについて伺いたい。

事務局：この計画は「市民がやること」「社協が担うこと」「市に協力を仰ぐこと」など、様々な視点で提唱されている。計画に対する具体的な取り組みは、各部会を中心に行うが、この委員会での検討の対象は、「組織と行政の連携」も含め、部会の評価だけではないと考えている。併せて、やってきたことをどのようにいつまでに評価するのもご議論いただきたい。最終的には、5年の計画期間中の活動がどうだったのかを、全般にわたって評価いただくことになると思う。

委員：「5年」というのは、どういうことか。

事務局：計画期間全体を見渡しての評価と考えている。

委員長：平成30年度が第三次計画の最終年となる。平成30年に計画を全うするために「ここまで言っておいた方がよい」「こういう方向性なら」など、喧々諤々をお願いしたい。現時点で平成30年の話がと言われてしまうかもしれないが、検討内容のテーマについては、バランスの問題もある。どのような形がよいのかも検討したいと思う。また、どうあるべきかということも意見交換を進めていきたい。

委員：まず前提として市民の中にこの計画が浸透していないことには何事も進まないと思うが、その辺りはどのような状況と考えているか。計画に対する市民の認知度について伺いたい。

事務局：今現在では、認知度は低いと考えられる。計画策定時には、市民向けに「おひろめ会」を開くなど、計画を知ってもらえるような活動は進めてきた。

委員：それは、どのような会だったのか。

事務局：文京区で取り組んでいる『こまじいのうち』という「居場所づくり」や「住民参加活動」の実例を講演していただき、講演終了後、出席者に活動計画の取り組みに参加していただく「きっかけ」としてグループワークを行った。おひろめ会を開催したことによって計画が浸透したとは言えない。

事務局：現時点では、浸透度合いは低いと思う。しかし、各部会で取り組みを進める中で計画を広げてもらっている。「情報部会」では「回覧板を回す」企画を実行することで、協力者を増やし、この計画の理解につなげていきたいと考えている。

「人材部会」では、取り組みに合わせて、いろいろと情報を収集しつつ計画の説明を行っている。

委員：私は地域で「ほっとネット推進員」の活動に参加しており、多くの市民が参加しているが、「ふれまち」の活動は知っていても、計画については全く認知はされていなかった。

3つの柱があって目標を設定し進めていることが、市民には浸透してない。関係者や参加者が、自らやっていることを話すことはあっても、活動計画について話をするのではない。

委員：「人材部会」に所属している。体操の仲間から「自らの戦争体験の話を聞かせたい」との話を受け、地域の学校と連携して子どもたちに話をすることを進めていった。子どもたちが感想を書いてくれ、それを見てその方は若い人に受け入れられたと喜んだ。その後、その方は現在、東京都で募集していた「語り部」となって活動している。戦争体験を話す企画は、社協でも取り組んだが、50人以上が参加してくれた。来場者も感動しており「西東京市にもこんな人がいるのか」と驚かれた。

今後の「居場所づくり」にも生かせると思う。地域は人材の宝庫。初めはどう

やって集めるか検討がいるが、だんだんと認識されるのではないか。

委員長：こうした活動を進めていけば、計画に対する認知度の低さも克服できるのではないか。この計画を実現すれば西東京市は良くなると思うので、そのために実施できているかの検証、計画の普及、内容の実現度などを考えていきたい。

## 7. 第三次西東京市地域福祉活動計画の趣旨説明

☆事務局より「資料6：第三次西東京市地域福祉活動計画について」に沿って説明。

委員長：第三次計画をダイジェストでご説明いただいた。詳細は冊子を見ていただきたい。何かわからないこと、確認したいことがあったらお願いしたい。

委員：具体的な活動内容が3つに整理されているとのことだったので、よくわかった。

委員長：従来の活動計画では具体的な活動計画と合わせて、社協の財源確保・会員増強なども示されていた。

今回の計画の策定には、多くの市民が関わっていて「社協の経営の部分はよくわからない」とのご指摘もあり、「住民・市民ができること」が載ったものになっている。これまでの計画や他市の計画と比べても斬新だと思う。内容がコンパクトにまとめられている。

委員：推進部会のメンバーが進行管理委員会に入るのが適切かという疑問があった。これまでの計画では、社協がどのようにすすめているのかについての進行を管理してきたが、今回は推進部会が委員会に追及されるのではないかと考えていた。

そうならないように、活動内容について報告していきたいが、「計画がどれだけ認知されているのか」と言われると難しい。どうすすめるかについては、実際に動いているメンバーはボランティアであり、厳しいと感じている。追及されるのはつらい。

委員長：進行管理委員会のメンバーに部会の方が一人もいないのも、いかがなものかと感じていた。部会の方がいない中での議論は、上から目線にならないかという懸念もあった。部会の方が入る意味はあると思う。計画を実現するというミッションをみんなで話し合うことが大切ではないか。どうやって実践していくかを考えていきたい。そもそも、今までのやり方とは変えてきている。個々の委員が「自分たちならどうやって結果を出していくか」を出し合えばよいのではないか。言うのは簡単なこと、一緒に考えていきたい。

委員：「進行管理」という名称に違和感を覚えた。福祉は、単純に○とか×で測れるものではない。その計画がどのように進められていて、+αできることは何なのか、計画が認知されるために何をすべきかを考える場だと思っている。「評価」との話がでたが、評価という言葉自体が好きではない。できていないことなど、マイナス面を見る部分はいらぬし、いろいろな意見を足していくものだと思う。外から、離れたところから見るとわかることもある。その視点で話し合いたい、評価という言葉を使うべきか考えている。

委員長：計画策定の中で、数年後つくられる第4次西東京市地域福祉活動計画に結び付けられるのかという声もあった。たとえば「居場所」を作ったものの一人しか参加していない場合、それは成功だったのか失敗だったのかは、簡単には評価できない。ただし、それだとよくわからないという委員もいた。客観的に表さないと次の計画に結びつけることができない。何でも数値で測ることはできないが、できていなかったことを将来に活かすためにも、「何ができていないのか」を表記していくことが必要だと思う。それまでの経過を評価して、次につなげなくては行けないが、第二次の活動計画ではそこができていなかった。ただし、住民による地域福祉活動の評価は見える側面だけではないということは押さえておきたい。

## 8. 平成26年4月から平成27年10月末までの取り組みについて

☆事務局より「資料7：第三次西東京市地域福祉活動計画「推進部会」について」に沿って説明。

これから各部長よりご説明いただきたい。

委員：「居場所づくり部会」について。現在は4名の部会員、うち2名は策定委員。平成26年度は準備期間として、先行している居場所やサロン活動を学ぶため、埼玉県三芳町などを視察した。平成27年度は「まず1つはやってみる」ということで、モデル事業として泉町の「ふれまちルーム」（社協の地域活動拠点）を利用して、フリーマーケットを開催し、居場所づくり部会の活動や拠点について地域の人に知ってもらった。また、数万円ではあるが、その後の活動資金を得ることができ、居場所づくり部会の貴重な財源となっている。また、公式なプロジェクトではないため、社協での予算化はされていない。その後も3回ほど「よってらっしゃい」企画として活動をした。今後はクリスマスにも活動を予定している。やってみてわかったこととして、結構子どもが来場した。新たなニーズとして、学童保育的な機能ができないかが挙げられた。また、4つの問題点が出されている。1つ目は「人材」。運営をしてくれる人の確保ができない。計画では、最終的に8か所での活動が予定されているが、4～5人のスタッフが入れ代わり立ち代わりでやっていかないとできないため、相当なスタッフ数が必要となり、苦戦すると思われる。2つ目は「もの」。活動場所となる拠点として「空き家」の利用が考えられるが、具体的に確保することは、言うのはやさしいが難しいと思う。緑町に新規拠点ができる予定もあるが、実際には社協の活動拠点を利用せざるを得ない。3つ目は「金」。フリーマーケットである程度の資金を得ることができたが、

本格的に実施するには、安定した収入が必要となる。社協で来年度以降予算化できるのか関心を持っている。もしも、予算化できなければ、今年と同じようにやらないといけない。

4つ目は「情報」。活動計画については、確かに市民に知られていない。だが、1つプロジェクトをやることで地域では認知される。地域の人をスタッフに引き込むことで、つながりを持っていきたい。社協内には「ふれまち」や「ほっとネット」等があり、それぞればらばらに動いていると思うので、一緒に連携して動けないか考えたい。

委員：「人材部会」について。発足して1年ちょっとになる。5人で活動している。実際に行事を1回行った。スタッフの成熟度も高いと考えている。イベント開催については時間も足りなかったためにPR不足はあったと思う。ある程度の参加者はあったが、社協職員や関係者の参加が課長1名のみだったことは寂しかった。

人材発掘については、「キャラバン隊」を作ることが提唱されたが、必要なしとしてパスすることとした。部会員個々が人脈を使って地域で活動する人材を50人以上リストアップすることができた。

また、人材を公募後に新たに10数名が登録した。その方々が、どれだけのレベルのスキルがあるのかは分からないが、活動が可能なのか今後検討したい。また、スタッフの人材不足という課題はあるが、今のところ、単発の活動のため、やれる自信はある。

事務局：居場所づくり部会と人材部会は、合同部会も実施した。人材の募集を検討した時に、居場所への人材集めを進めるとの提案もあったが、現在では、それぞれの部会に分かれて活動している。

情報部会について、担当委員が欠席のため事務局より報告する。

どのような情報を活用するのかから検討し、最初は「アナログな情報」の活用について計画した。活動計画の中の「市民ができること」という視点から、武蔵野大学、日本社会事業大学の学生の協力をもらいながら取り組んでいる。

現在は、田無町第2区町内会の協力をいただき、回覧板の取り組みをすすめている。12月には対象地域にチラシを全戸配布し、まずは自治会に加入していない方が自治会に入ることによって地域活動に加わってもらい、その後1月には回覧板を回す計画がある。回覧板を活用して地域をつなぐことを進めたいと考えている。

また、デジタルな情報の活用については、現在社協が運用している「フェイスブック」や「ツイッター」を利用して行いつつ、他の媒体も検討していきたい。

委員長：それぞれの部会から説明があった。これらの情報を共有化していきたい。わからないことがあればお願いしたい。

委員：活動に関する予算はどうなっているのか。

事務局：現時点において概ねある程度の予算は組んでいる。今後、各部会から、具体

的な提案・計画が明らかになれば、新年度予算の中でも予算化していきたい。ちなみに、一例として物品購入などには130,000円ほど計上している。

委員：「ふれまち」の活動で「サルビアカフェ」を運営しているが、地域を回ると参加したい人や楽しみにしている人もいるので、予算化して安定して運営できるとよいと思う。このような活動に参加することによって、地域を支える人になってもらいたいと考えている。

委員長：人材については、全体に関わる問題になるのでそこをどう落とし込むか。進行管理シートの作成にもつながると思う。

## 9. 進行管理シートの作成について

☆事務局より「資料8：第一次、第二次西東京市地域福祉活動計画進行管理シート」に沿って説明。

計画の中で、できたこと、成果があったことも含めて評価と考えている。

第一次の活動計画では、55の目標を事業名に移し、管理シートの枠に入れて前半3年間、後半2年間の評価を行った。具体的な年度の取り組み・アクションプラン・事業実績についての記入作業は事務局職員が行った。市民がどう感じているかの満足度を大切にしたが、項目に対する評価の基準が不明確で、主観によるものとなったむきがある。項目として55は多かったと思う。

第二次の活動計画では、42の事業に対し、評価すべき項目を検討し、28事業に絞って評価を行った。まずはできたのかできなかったのか、市民の満足度なども記載した。

また「財源」「場所の確保」というキーワードを入れて評価を行った。事業評価の特徴としては、費用対効果について「配置協力者の人数、職員数、経費」などを委員会で評価し、担当者としての自己評価なども行ったが、記入する部分が多くなってしまったために、第一次・第二次の評価は、内容が細くなり過ぎた。数値で表すことが難しい内容なので、どうやって表すかが難しかった。今回の進行管理委員会では、どのように評価するのか、次回以降の議論になる。その辺りもご意見をいただきたい。

委員長：第一次、第二次の計画は、どちらもそれほどうまくいかなかったと感じている。実施したことは良かったが、労力の割には成果が出なかったと思う。今後、新しい評価シートについて、たたき台を事務局と作る予定だが、方向性、やり方など意見があれば伺いたい。

委員：その前に一つ伺いたい。「成果が出なかった」といわれる理由は何なのか。

委員長：評価が複雑すぎたと思う。シートの作成を職員が行ったが、何をどう見ればよいのか、項目が細かすぎてわかりづらく大変だった。

委員：「大変だった」から簡略化すればよいことなのか、情報が多すぎてわからないのか、どちらなのか。



委員長：両面あると思う。評価の在り方については、試行錯誤が続いていた。この時の到達点であったことが事実だが、課題も多くあった。上手に評価できて、第三次の計画に活かすことができたのかどうか、難しい評価だった。

計画と実践のどこをどう見ればよいのか、定説は無いので難しい。数値で表せないのが福祉だと思う。何を評価するか、委員会で検討していただきたい。

委員：「費用対効果」「コスト」などの説明があった。また、職員が実践したとの話があったが、どのくらいの業務比率であったのか。本業に対して「5%、10%」など、割り出すのは至難の業だと思う。厳密に「費用対効果」が出せるのか、項目として適切であったのか。

福祉の世界なので、簡易な方法で評価した方がよいのではないか。言葉による評価や、「5・4・3・2・1」のような、その程度の評価でよいのではないか。いずれにしても基準をしっかりと持たないと恣意的なものになってしまう。

委員：定量評価と定性評価がある。だいたい定量評価がされているが、福祉では定性評価をしなくてはならない。大切なのはアンケートだと思う。参加人数が少なくても中身が濃いかどうかなど、質問の仕方を工夫すると、だいたいのことはわかると思う。記述してもらうことで、どのようなことをしたのかがわかり、評価にもつながると思う。

委員：第二次の計画の中で「コスト」というワードが出たが、これは「コストを切れ」ということなのか。人事評価を行う中で「店長が好きかどうか」という項目がある。店長が好きなら、その職員は辞めない。店長が、日頃からどうやって動いているかが分かる。やってきたことが良かったかどうかなど、この評価をしたことで次に活かされているかどうかが大切だと思う。それがきちんと見えるような形で評価すべき。

参加者の数などは、無理やり来てもらっても意味がない。来た人の満足度で測るべきで、イベントでは大切なことだと思う。人を介してどう伝わっていくかにもつながる。人数を目標に掲げるなどの評価は、いかがなものかと思う。

委員：福祉の評価は他とは違う。人が100人来ても、思いがどう伝わっているか。1人にでも届けばよいこともある。関わっている人も「こんなに頑張っているのだから、またやってみようね」と思ってもらえるような評価でいいのでは。日頃、子どもと対峙することが多いが、子どもは褒められる機会も多いし、褒められる基準がある。大人には褒めてもらう基準がはっきりせず機会も少ない。大人が大人を褒める大切さを感じている。大人として大人がどうやったら動いてくれるかを考えることは大切。大人は物では動かない。褒められることで士気が高まると思う。その人の企画には人も集まってくる。そういう評価が見えるように進めていきたいと思う。

委員長：いままでは計画に対して「だめだ」という指摘が多かったと思う。褒める評価について、事務局と相談していきたい。また、他市の評価の在り方については、東社協にも相談したいと考えている。

初回から、貴重なご意見をたくさんいただくことができた。次回以降もよろしく  
お願いしたい。

以上をもって、第1回第三次西東京市地域福祉活動計画進行管理委員会を終了  
する。